2026 年度事業計画（案）

【技術委員会】

■会議ミーティング

●月 1 回のミーティングを開催し、年 12 回実施予定。
●選考方針の協議を行う。

■国際大会派遣

●ICF カヌー スプリント ワールド カップ
・2026 年 5 月 14 日（木）～17 日（日）
・ドイツ・ブランデンブルク
●ACC アジア選手権大会
・2026 年 6 月 4 日（木）～7 日（日）
・カザフスタン
●ICF カヌー スプリントパラカヌー ワールド カップ
・2026 年 7 月 9 日（木）～12 日（日）
・カナダ・モントリオール
●ICF カヌー スプリントパラカヌー世界選手権
・2026 年 8 月 26 日（水）～30 日（日）
・ポーランド・ポズナン

【トレーナー委員会】

■オンライン部会内セミナーの開催

●目的：6 か年計画の目標達成のための知識共有とブラッシュアップを図る。
●開催時期：年 4 回の部会内ミーティング開催時（予定：４月、８月、１１月、２月）
●開催人数：講師 3 名（年 3 回）
●内容：年 4 回のミーティング中に知識レベルの向上を図るため、オンライン講習会を継続する。

■2026 年度強化合宿・国際大会トレーナー派遣

●目的：国際大会に出場する日本代表選手のサポート
●強化合宿
・木場潟（4 月、8 月、10 月）
・JISS＆海森（9 月）
・府中湖（3 月）
※各 7 日程度
●国際大会
・ドイツ（5 月）、カザフスタン（6 月）、カナダ（7 月）、ポーランド（8 月）
※各 10～12 日程度

■水難救助に関する講習会の開催

（国内大会・地域練習における水難救助スキルと EAP の確立各エリア拠点の確立）
●目的：国内大会や地域練習時における水上での応急処置・救命等水難救助スキルの習得とと手順の確立
●開催時期：国内大会（日本選手権、海外派遣選手選考会）直前強化合宿または J-star 期間中を想定。
●内容：日本ライフセービング協会、連盟医科学委員会・アンチドーピング委員会・クラス分け委員会と連携し、パラカ ヌー競技の安全性を担保するための知識

と技術を身につける。

■J–star Project（発掘・育成事業への派遣・各エリア拠点の確立など）

●目的：JPC の J-star 事業における選手の発掘・育成サポート

●開催日程

・6月 20 日（土）　香川県　あなぶきアリーナ香川
・6月 28 日（日）　東京都　日本財団パラアリーナ
・7月18日（土）　大阪市　大阪市舞洲障害者スポーツセンター（アミティ舞洲）
・8月 1日（土）　熊本県　ナースパワーアリーナ
・8月 15 日（土）　東京都　※調整中
・8月 30 日（日）　岐阜県　岐阜県福祉友愛アリーナ
・9月 22 日（火）　新潟県 新潟県障害者交流センター

【医科学委員会】

■医師サポート

●JPC チームドクター会議への出席

●JPC メディカルチェックの実施

・肝機能、脂質異常に関しては、栄養士と連携し、食事調査、体組成測定（皮脂厚など）の実施検討

●安全対策の実施

・大会時の救護体制・方法、日常の活動環境や装備確認などに関する連携
・海外大会時の選手・スタッフのコンディション、持参薬確認、アンチドーピング（内服確認）などについての連携

●各委員会との連携

・強化スタッフや技術委員会、普及委員会等と選手強化、発掘、普及などに関して連携を図る。

■心理サポート

●強化計画・戦略および選手のニーズに基づいたサポート

・合宿時の測定は、選手に自らのコンディショニングに役立ててもらうため、心理検査(心身コンディション)、自律神経活動測定(TAS9VIEW)、唾液コルチゾールなどを指標として測定、選手へフィードバックする。
・合宿時の面談では、測定データをもとに「課題の分析と目標設定」の支援を行う。
・練習視察を行いながら、必要に応じてフィードバックを行う.
・育成選手と代表選手の心理データの比較検討（JISS 心理検査等：心理的競技能力の評価）

■栄養サポート

●栄養相談・栄養講話の実施

●代表選手等に対する「食事内容と血液検査結果との関連」に関する研究実施

●希望選手に対する皮脂厚測定

■トレーナーサポート

●国際大会に向けた準備

・害虫対策用品および海外渡航時の新型コロナウイルス検査キットの準備検討。

●J-STAR 事業との連携

・2026 年 6 月～9 月の基礎測定会への協力（予定）。

●医科学的アプローチ・新手法の導入

・2026 年 10 月の JISS での体力測定に向けた VBT 測定や可動域測定の導入準備。

●ウォーミングアップの刷新と標準化

・画一的ではなく個々の状態に合わせて調整できる柔軟性を持たせた標準化メニューの導入及び既存動画のバージョンアップ。

●水上安全確保のスキル向上
・トレーナーに対する救助スキル等の能力向上の必要性の周知と検討。

【アンチ・ドーピング委員会】

■委員会の定例開催

●原則、毎月第 3 火曜日、委員会内での情報共有を目的に開催。

■関係機関との連携

●JADA（日本アンチ・ドーピング機構)、JPC（日本パラリンピック委員会）との窓口対応。
●関連情報を入手後、委員会および他委員会へ展開。
●JADA/JPC が開催する教育担当者会議や研修に参加し、情報収集および共有を実施。

■使用薬物調査（医科学委員会・強化部と連携）

●連盟所属選手の使用薬物調査を実施。
●スポーツファーマシスト 4 名が調査を実施し、医科学委員会と情報共有。

■お薬相談窓口の設置

●禁止薬物や服薬に関する選手からの相談を常時受け付け。
●スポーツファーマシスト 4 名で内容を精査し回答。

■規則・TUE（治療使用特例）申請に関する相談対応

●ドーピング規則・TUE に関する問い合わせを常時受け付け。
●主治医とチームドクターと連携し、スポーツファーマシスト 4 名で TUE 申請の支援。

■ドーピング検査報告の収集

●選手からの報告を集積し、検査内容に関する情報をフィードバック。

■アンチ・ドーピング教育研修会

●対象：日本代表選手、次世代育成選手等連盟に加盟する選手およびスタッフ
●内容：JADA 提出「2026 年度教育計画」に基づき、ドーピング規定、禁止薬物（WADA 2026 リスト)、検査方法などを教育。

■ アンチ・ドーピング啓発活動

【クラス分け委員会】

■オンラインミーティング

●内容：国内・国際クラス分けの結果・動画の共有とクラス分け結果の管理及び国内クラス分け規則の改定（当該年度中）
●日程：2～3 ヶ月に 1 度の開催
●場所：Web

■競技会内国内クラス分け

●内容：競技会での公式なクラス分け業務
●日程：レース 2 日前から 2.5 日、年 2 回
●場所：日本選手権、海外派遣選手選考会
●人数：競技役員 2 名（メディカル 1 名、テクニカル 1 名）を派遣
※日本選手権は、「JPC 国内クラス分け支援事業」の助成金を活用し追加派遣予定

■クラス分け委員養成、認定講習会（次年度復活を検討）

●内容：新規クラス分け委員の要請、認定
●日程：未定、座学 2 日間、実技 2 日間（競技会への参加）
●場所：未定（海の森、石川、香川（予定））
※「JPSA 競技別指導者養成講習会委託事業」の助成金を活用し実施予定

■国際クラス分けワークショップへの参加

●内容：国内・国際の評価基準のすり合わせ
●日程：未定

●場所：未定
●参加人数：国内クラス分け委員のうち希望者

■選手・支援者に対する国内クラス分け講義、教育

●内容：競技クラスおよびステータス、評価手順、事前提出資料の説明
●日程：未定
●場所：Web

■国際大会前の国内クラス分け、事前提出書類の提出

●内容：[R][FRD]選手のクラス分け評価、事前提出書類の作成・提出
●日程：未定
●場所：国内事前合宿場所、Web

■J-STAR 事業におけるパラカヌー対象者の選定

●内容：各地区で開催される J-STAR 事業において、参加者一覧から
●パラカヌー対象者を選定
●日程：各地区の参加締切後、概ね 1 週間内。
●場所：Web

■選手発掘事業等への参加協力

●J-STAR、東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム、チャレスポ TOKYO など

【女性スポーツ委員会】

■JPC 女性スポーツ委員会との連携

●相談、各種支援の申請等の取りまとめを行う
●女性パラアスリート、スタッフに向けた研修への参加

■強化指定選手、育成選手への教育、啓発活動の継続実施

【アスリート委員会】

■アスリート委員会の開催

●日程：4 半期に 1 回開催予定（4月、 8月、11 月、 3月頃の他、必要の都度開催）。
●内容：競技活動、普及活動、連盟運営等に関すること及び各種情報共有。

■連携・協力

●JPC アスリート委員会など外部団体の情報共有。
●連盟内各委員会との連携、情報共有。

2）普及部

【普及委員会】

■関係機関及び団体・施設、スポーンサー企業等との連携・協力

●体験会及び講習会等の開催
●理解啓発活動の実施
●協力事業へのスタッフ・サポーター等の派遣

3）マーケティング・広報部

【マーケティング事業】

■外部委託企業及び自治体等との連携

●今後のマーケティング活動の主軸となるようなゴールドパートナー企業を獲得し、アクティベーションに注力することで協賛企業獲得のための環境整備を行い、今後の収益基盤の強化を図る。
●主に普及活動を通じ各自治体とのパイプラインを太くし、スポンサーとなりうる地元企業との連携を図る。

【広報事業】

■効果的・効率的な広報活動

- ●広報戦略を策定し、効果的な PR 活動の礎を築く。
- ●SNS 配信など PR 配信、HP 更新など広報戦略を作成して定期配信を行う。
- ●上記活動を通じたパラカヌーの認知度向上とフォロワー数等の増加策の策定と実行。
- ●選手へ向けた SNS 活用方法や広報指導。